

平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	ヨーロッパにおける階級社会と近代社会の境界線の観点からみた ベートーヴェンのピアノ作品の研究 ～19世紀初頭の社会情勢（ビーダーマイヤー文化）から～
報告者氏名・所属・職名	深井尚子・岩見沢校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	深井尚子・岩見沢校・准教授
研究内容及び成果の概要	
<p>ベートーヴェン研究は、多くの音楽学者によって文献研究が進められているが、ベートーヴェンの後期作品（1815年以降1827年）の作風の変化がその時代背景と関係性が深いということについての研究は、わずかである。本研究は、ウィーン体制時代（1815年～1848年）に生まれたとされるビーダーマイヤー文化とその社会情勢からベートーヴェンの後期作品の難解さとロマン性の開花を関連付ける新しい視点からのアプローチである。</p> <p>ベートーヴェンの後期とビーダーマイヤー時代は重複しており、難解な内面性と斬新な音楽技法に変化していったベートーヴェンの音楽と、安易で娯楽的な音楽が愛好されたビーダーマイヤー時代との正反対な理念が交錯していた時代に、ウィーンにおけるベートーヴェンの音楽の受容について調査する。そこから、ベートーヴェンの複雑で難解になった後期作品がどのように現代に受け継がれ、現代においては、名曲と呼ばれる作品の継承の経緯を見出そうとするものである。</p> <p>日本において、ビーダーマイヤー文化についての研究は非常に少なくあまり注目されない部分である。しかし、ヨーロッパ、特にウィーンにおいてビーダーマイヤーの多角的研究がなされている。オーストリアのウィーン国立図書館音楽館には、1815年～1830年に行われた演奏会のプログラムが保管されている。当時の演奏会の内容にベートーヴェンの音楽がどの程度演奏され、また、どのような曲目に取り上げられたのかを調査した。また、ウィーン楽友協会資料室においても、当時の楽友協会での演奏会プログラムを検証した。その結果、1815年のウィーン会議において企画された演奏会では、ベートーヴェンの音楽は非常に多く上演されていることがわかった。また、その後、ビーダーマイヤー時代には、ベートーヴェンやモーツァルトの作品が取り上げられていることが見出された。しかし、そのプログラムの内容を見ると、現在では、ほとんど演奏されないオラトリオ「オーヴ山のキリスト」や「アテネの廢墟」等の劇音楽の一部、また、交響曲の緩徐楽章のみなど、後期作品はほとんど取り上げられず、宗教曲や声楽曲が多いことがわかった。この検証によって、ベートーヴェンの後期作品は、ビーダーマイヤー時代にはほとんど演奏されなかったことが明らかになった。このウィーン現地に保管されている資料を収集したことで、ベートーヴェンの後期作品がビーダーマイヤー時代の音楽受容には合致していなかったことが見出された。この検証と資料収集によって、本研究における仮説が正しいものである可能性があることが考えられる。その結果、本研究がさらに進む見通しが生まれた。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】深井尚子, 芸術・スポーツ文化学2, 大学教育出版, 2016, 347p (</p> <p>【学術論文】深井尚子, ベートーヴェン後期ピアノソナタにおける変奏曲形式の特徴と演奏法の考察, 北海道教育大学紀要64巻2号, 2014, pp53～68</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
ベートーヴェンは学校教育の音楽分野において重要な作曲家であり、その研究を深めることで中学校、高校における授業に活用できる。	
配布又はダウンロード可能な資料	深井尚子ホームページ（論文ダウンロード可能） http://www7b.biglobe.ne.jp/~shokopiano/

問合わせ先

代表者：深井尚子

電 話：0126-32-0361

FAX : 0126-32-0361

mail : fukai.shoko@i.hokkyodai.ac.jp